

令和4年度 SHIFT事業 事例集

令和5年3月

SHIFT（シフト）事業とは・・・

工場・事業場における先導的な脱炭素化取組推進事業

我が国の2030年度温室効果ガス削減目標の達成や2050年カーボンニュートラルの実現に向けて、工場・事業場での脱炭素化のロールモデルとなる取組を支援する事業です。

- I 計画策定支援事業： 年間CO₂排出量50 t 以上3000 t 未満の工場・事業場を保有する中小企業等に対し、CO₂排出量削減余地の診断および「脱炭素化促進計画」の策定を支援。
補助率：1 / 2、補助上限：100万円
- II 設備更新補助事業：「脱炭素化促進計画」に基づく設備更新を支援。
補助率：1 / 3、設備補助A：補助上限 1 億円
設備補助B：補助上限 5 億円

【補助事業の活用方法】

- ・ I を利用してCO₂削減計画を策定し、自己資金で対策を実施する。
- ・ I を利用してCO₂削減計画を策定し、IIを利用して対策を実施する。
- ・ 自らCO₂削減計画を策定し、IIを利用して対策を実施する。

目次	事例	業種	計画策定 支援事業 (実施年度)	設備更新 補助事業※	主要 システム 系統
1	吸収式冷凍機からマルチエアコンへの更新による効率向上	医療業	令和4年度	-	空調
2	マルチエアコン、ヒートポンプ給湯機等の更新による環境管理の取組み	社会保険・ 社会福祉・ 介護事業	令和3年度	A①	-
3	冷凍冷蔵機及びショーケースの更新による販売店環境の向上	各種商品 小売業	令和4年度	A①	-
4	ガスタービンコージェネレーション導入及び既設ボイラータービンとの協調運転による効率改善	食料品製造業	-	A①	-
5	給湯・加温システムのハイブリッド化によるエネルギー効率の最適化及び設備運用の平易化	宿泊業	-	A①	蒸気
6	高周波誘導炉への更新による周辺環境の向上	輸送用機械 器具製造業	-	A②	工業炉
7	蒸気ボイラーの更新と高効率設備の導入による生産性向上	洗濯・理容・ 美容・浴場業	-	A②	蒸気
8	木質バイオマスボイラーの導入によるトータルコストの削減	繊維工業	-	B	蒸気
9	ガス焚き蒸気ボイラーの導入による環境負荷の低減	化学工業	-	B	発電設備

※ 設備更新補助事業A：以下の①、②のいずれかの事業

① 工場・事業場単位（工場・事業場の年間CO₂排出量の削減目標が15%以上）

② 主要なシステム系統（主要システム系統の年間CO₂排出量の削減目標が30%以上）

設備更新補助事業B：以下のi)~iii)をすべて満たす事業

i) 電化・燃料転換 ii) CO₂排出量を4,000t-CO₂/年以上削減 iii) システム系統でCO₂排出量を30%削減

吸収式冷凍機からマルチエアコンへの更新による効率向上

●計画策定支援事業活用

◆事業者 概要

事業者	独立行政法人国立病院機構
対象事業所	久里浜医療センター
業種	医療業
所在地	神奈川県横須賀市



◆事業内容



●課題

現有の空調設備が30年経過しており、経年劣化に伴う故障も増加している。また吸収式冷凍機は、蒸気ボイラーにA重油を使用しているためCO2排出量が多くなっている。

●情報入手

支援機関からの紹介

●解決策

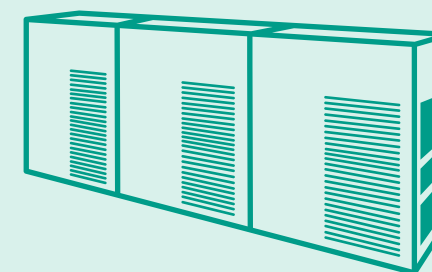
吸収式冷凍機から高効率なヒートポンプに更新するとともに、高効率なパッケージエアコンを導入することで、熱効率向上による燃料使用量の削減やCO2排出量の削減を目指す。



対象棟

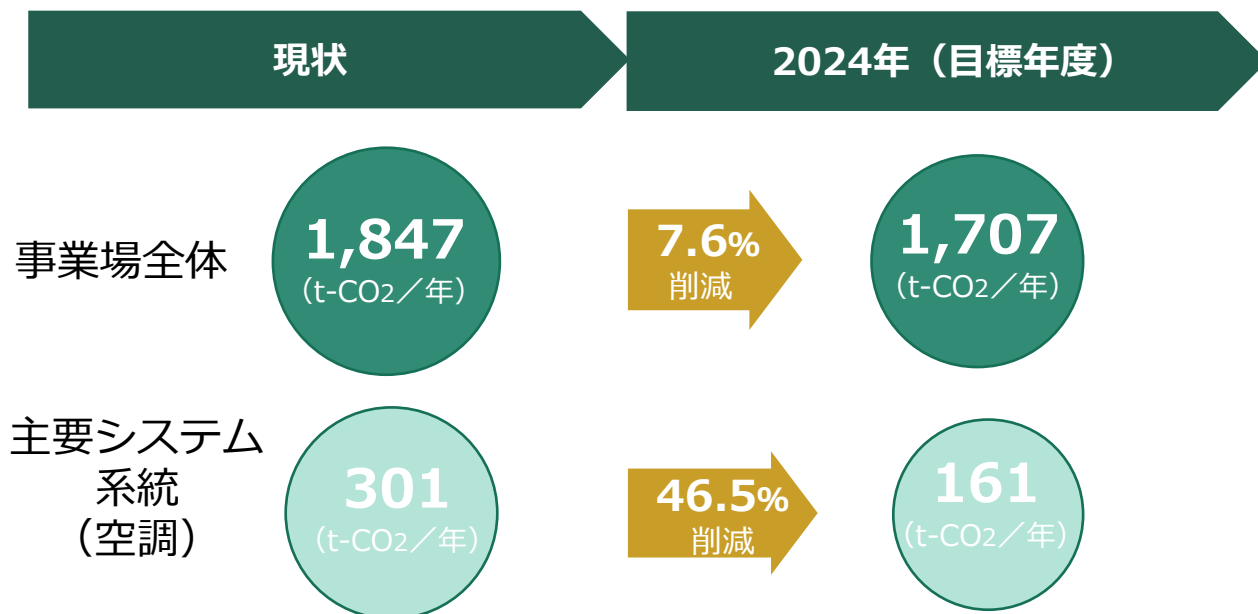


<吸収式冷凍機>
1,126kW1台



<ビル用マルチエアコン>
106kW、90kW、73kW各1台
<業務用マルチエアコン>
計161.6kW/22台

◆CO2削減計画



・期待する効果

エネルギーコスト削減額	約 430万円 / 年
投資回収年数（補助あり）	-
投資回収年数（補助なし）	-

・CO2削減以外の効果

- ・きめ細かな温度設定が可能になる
- ・冷暖切り替えの工数が削減できる
- ・メンテナンス費用が削減できる

◆CO2削減対策リスト

年間CO₂削減量の単位：t-CO₂/年
エネルギーコスト削減額の単位：千円/年

	対策種類		対策名称	CO ₂ 削減量	エネルギーコスト削減額
1	設備更新補助	燃料転換	高効率パッケージエアコンの導入	72	1,545
2	自主的対策	高効率化	高効率パッケージエアコンの導入（しおさい病棟）	65	2,635
3	自主的対策	部分更新・機能付加	集中コントローラー機能による空調機運用改善	3	128

◆関係者の声

事業者



独立行政法人
国立病院機構
久里浜医療センター
担当者様

国が掲げるカーボンニュートラルへ向けて、補助金の活用によって前進出来たことは、大きな意義があると考えます。医療に求められる役割を担うことはもちろんですが、長期的な環境への配慮も事業者として当然の責務です。今後も当院が置かれた社会的意義を理解し、出来ることから一歩ずつ進めていきたいと思っております。

支援機関

ダイキン工業株式会社

マルチエアコン、ヒートポンプ給湯機等の更新による環境管理の取り組み

◆事業者 概要

- 計画策定支援事業活用
- 設備更新補助事業活用

事業者	医療法人社団葵会
対象事業所	葵の園・はまの
業種	社会保険・社会福祉・介護事業
所在地	千葉県千葉市



◆事業内容

2020年10月 検討開始 2020年12月 補助事業活用決定 2021年7月 応募申請 2023年1月 事業完了

●課題

給湯機、空調等のエネルギー効率が悪く、更新時期が過ぎているが、投資金額が大きく自費では難しい。

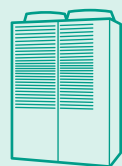
●情報入手

コンサルティング会社（支援機関）からの紹介

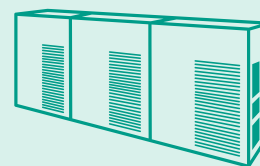
●解決策（補助金額 約 4,000万円）

①高効率なマルチエアコン、②高効率なヒートポンプ給湯機等を更新することで、電気使用量の削減や契約電力料金の削減を目指す。また環境管理の向上を図る。

①



<ビル用
マルチエアコン>
56kW、40kW、
33.5kW各2台



<ビル用高効率
マルチエアコン>
45kW、40kW各1台
56kW、33.5kW各2台

②

[給湯]



<ヒートポンプ給湯機>
61kW3台



<高効率ヒートポンプ給湯機>
40kW3台

[昇温]

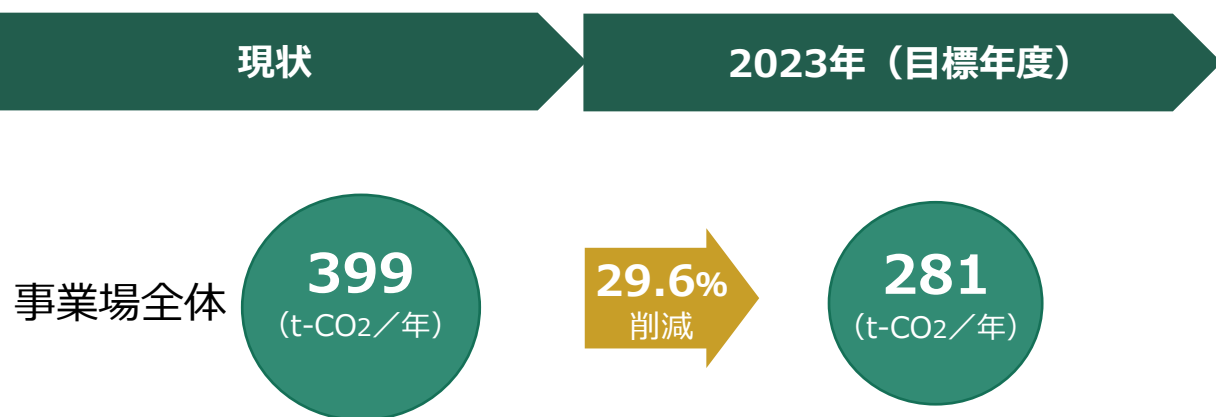


<電気ヒーター
昇温貯湯器>
35kW1台



<高効率ヒートポンプ給湯機
+寒冷日用電気ヒーター>
45kW、15kW各1台

◆CO₂削減計画



・期待する効果

エネルギーコスト削減額	約 400万円 / 年
投資回収年数（補助あり）	約 21年
投資回収年数（補助なし）	約 30年

・CO₂削減以外の効果

- ・施設の故障リスク回避が可能となる
- ・施設の快適性が向上する
- ・全体的にエネルギーコストの低減に繋がる

◆CO₂削減対策リスト

年間CO₂削減量の単位：t-CO₂/年
エネルギーコスト削減額の単位：千円/年

	対策種類		対策名称	CO ₂ 削減量	エネルギーコスト削減額
1	設備更新補助	高効率化	高効率マルチエアコンの導入	46	1,753
2	設備更新補助	高効率化	高効率ヒートポンプ給湯機と電気ヒーターの導入	35	1,332
3	設備更新補助	高効率化	高効率冷凍冷蔵設備の導入	4	167
4	自主的対策	高効率化	LED照明の導入	21	785
5	自主的対策	運用改善	冷暖房設定温度の緩和	12	—

◆関係者の声

事業者



医療法人社団葵会
理事長 新谷 幸義様

支援機関に主体的に動いて貰え、当初の補助金活用が実現しそうである現在、当グループで管理する他の施設で保有する設備が更新時期を迎えているため、今後も本補助事業に応募し、補助金を活用し省エネ活動を強力に推し進めたい。

支援機関

株式会社エナジーサービス

冷凍冷蔵機及びショーケースの更新による販売店環境の向上

◆事業者 概要

- 計画策定支援事業活用
- 設備更新補助事業活用

事業者	S社
対象事業所	T店
業種	各種商品小売業
所在地	兵庫県

◆事業内容

2021年10月	2021年12月	2022年6月	2023年2月
検討開始	補助事業活用決定	応募申請	事業完了

●課題

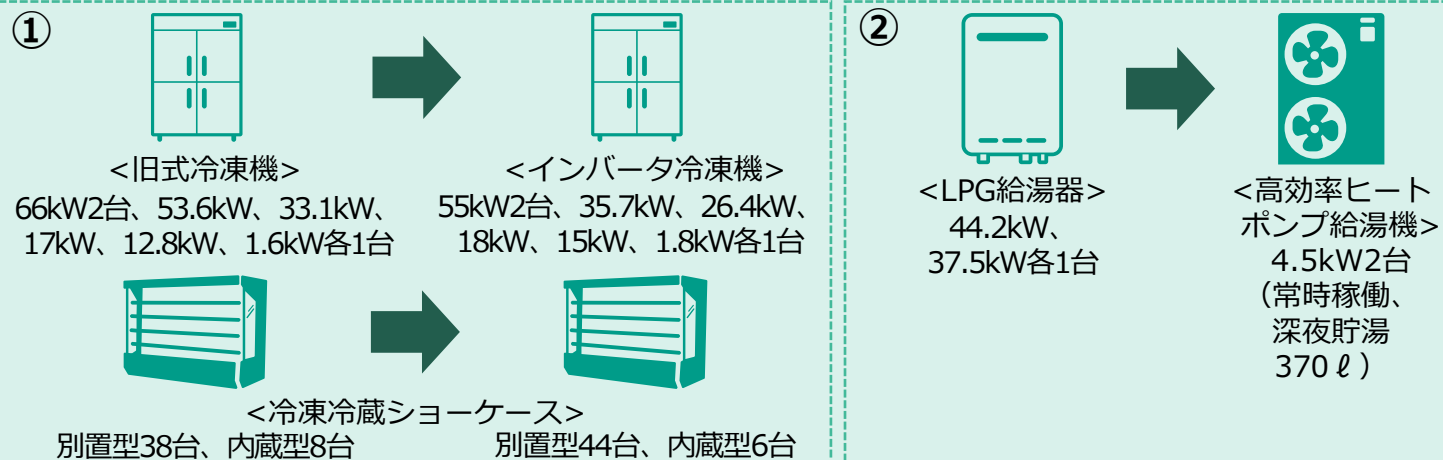
冷凍機の大半が定速機でエネルギーロスの要因となっており、フロン排出抑制対策も急務である。また惣菜とベーカリーの作業室にガス給湯器を使用しており、高効率なヒートポンプ給湯機へ更新し効率化したい。

●情報入手

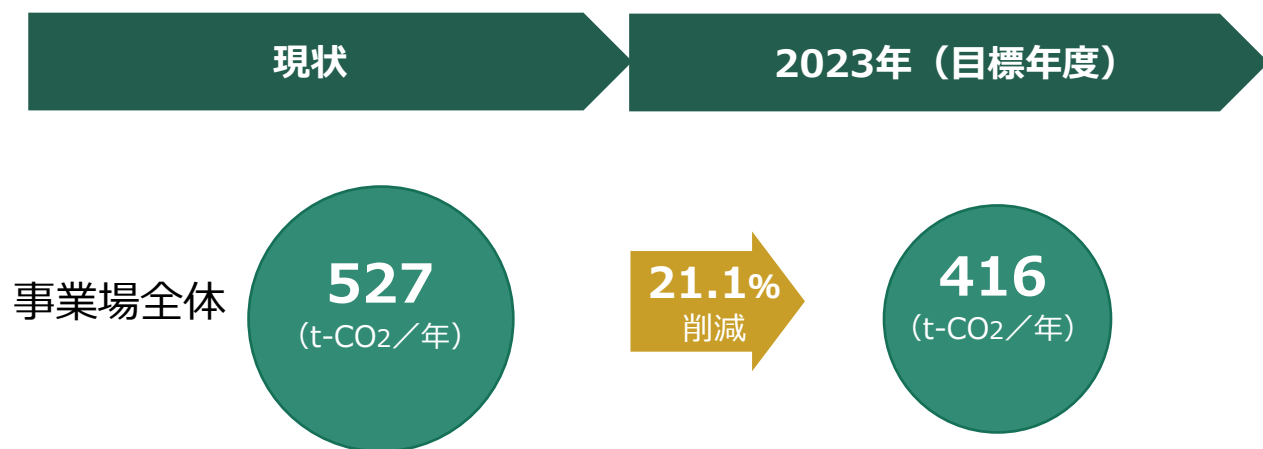
SHIFTに関するweb情報

●解決策（補助金額 約 2,250万円）

①高効率な冷凍冷蔵設備や②高効率なヒートポンプ給湯機等を更新することで電気使用量の削減や販売店環境管理の向上を図る。



◆CO₂削減計画



・期待する効果

エネルギーコスト削減額	約 400万円 / 年
投資回収年数（補助あり）	約 13年
投資回収年数（補助なし）	約 19年

・CO₂削減以外の効果

- ・冷媒R22が既に生産中止となっていることから、更新によってリサイクル品や部品の交換、ガス補充等のメンテナンス性も向上する
- ・部品の欠品やガス漏れ等のリスク防止につながる
- ・冷房設定温度を24℃以上（理想は27℃）に緩和する

◆CO₂削減対策リスト

年間CO₂削減量の単位：t-CO₂/年
エネルギーコスト削減額の単位：千円/年

	対策種類		対策名称	CO ₂ 削減量	エネルギーコスト削減額
1	設備更新補助	高効率化	冷凍冷蔵設備の更新	85	—
2	設備更新補助	部分更新・機能付加	EMS導入による防露ヒーターの間欠制御	7	—
3	設備更新補助	電化	高効率ヒートポンプ給湯機の導入	3	—
4	自主的対策	高効率化	100均ショップ基本照明のLED化	15	—

◆関係者の声

事業者



S社
担当者様

大きな費用のかかる冷凍設備の入れ替えは、何年も延期を繰り返していましたが、冷媒ガスの問題があり冷凍設備の更新が急務となりました。CO₂削減での補助金を知り、まずは策定支援事業に申請致しました。策定支援事業により冷凍設備更新でのCO₂削減と合わせて削減対策を提案していただき、今回の設備更新となりました。

支援機関

株式会社豊国エコソリューションズ

ガスタービンコージェネレーション導入及び既設ボイラータービンとの協調運転による効率改善

◆事業者 概要

●設備更新補助事業活用

事業者	日本食品化工株式会社
対象事業所	富士工場
業種	食料品製造業
所在地	静岡県富士市



◆事業内容

2019年5月 検討開始 2021年12月 補助事業活用決定 2022年5月 応募申請 2025年2月 事業完了

●課題

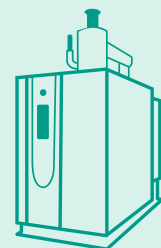
現用のボイラータービン発電設備は、C重油を燃料としており、CO₂排出量が多く、また更新対象設備は30年以上稼働し、不具合の発生頻度が増加している。場合により熱電供給が長期間停止しCO₂原単位が増加するリスクがある。

●情報入手

エンジニアリング会社からの紹介

●解決策（補助金額 10,000万円）

C重油焼き蒸気ボイラータービン発電設備の燃料転換事業を実施することで、電気使用量の削減やCO₂排出量の削減を目指す。また環境管理の向上を図る。

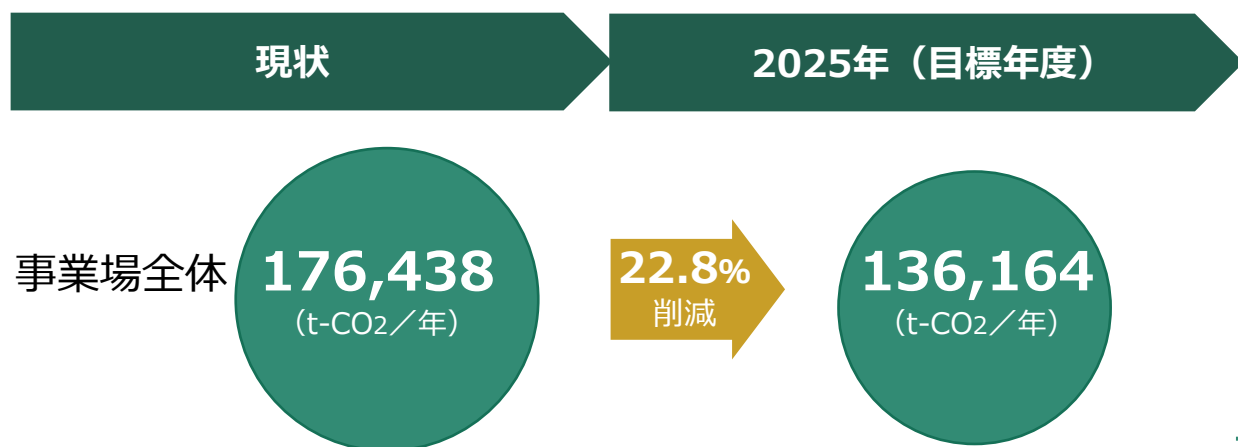


<C重油焼き蒸気ボイラータービン>
11,700kW1基
<C重油焼き蒸気ボイラー>
51,409kW1台



<都市ガス焼き蒸気ボイラータービン>
7,580kW1基
<排ガスボイラー>
25,078kW1台
<都市ガス焼き蒸気ボイラー>
3,135kW4台

◆CO₂削減計画



◆CO₂削減以外の効果

- ・将来を見据えオペレーション、メンテナンス性の向上が図れる
- ・熱電供給設備の起動や停止時間の短縮が可能となる
- ・設備故障のリスクが低減し安定した設備運用が可能になる

◆関係者の声

事業者



日本食品化工株式会社
技術担当執行役員
海野 剛裕様

弊社では、「長期経営ビジョン NSK 2030」を策定し、その中で環境への取り組みも大きな柱として位置付けております。弊社事業であるトウモロコシからの澱粉製品、糖化製品の製造過程では多くのエネルギーを消費しておりますが、C重油焚きボイラータービン発電設備の燃料転換事業による設備更新は、CO₂の排出量削減を目指すとともに、長期経営ビジョンに沿った環境負荷低減のための大きな施策となるものです。設備の更新だけでなく、日常の使用エネルギーの抑制にも取り組みながら、より環境負荷を低減させるよう努めています。

◆CO₂削減対策リスト

年間CO₂削減量の単位：t-CO₂/年
エネルギーコスト削減額の単位：千円/年

	対策種類		対策名称	CO ₂ 削減量	エネルギーコスト削減額
1	設備更新補助	燃料転換	C重油焚きボイラータービン発電設備の燃料転換	39,979	—
2	自主的対策	高効率化	高効率LED照明への更新	175	—
3	自主的対策	高効率化	高効率空気圧縮機への更新	95	—
4	自主的対策	電力低炭素化	太陽光発電設備の導入	26	—

給湯・加温システムのハイブリッド化によるエネルギー効率の最適化及び設備運用の平易化

◆事業者 概要

●設備更新補助事業活用

事業者	三井住友信託銀行株式会社(信託受託者) 株式会社マイステイズ・ホテル・マネジメント
対象事業所	亀の井ホテル別府
業種	宿泊業
所在地	大分県別府市



◆事業内容



●課題

A重油焚き温水ボイラー、吸収式冷温水機の更新時期を迎え、CO₂排出量とランニングコストが過多となっている。

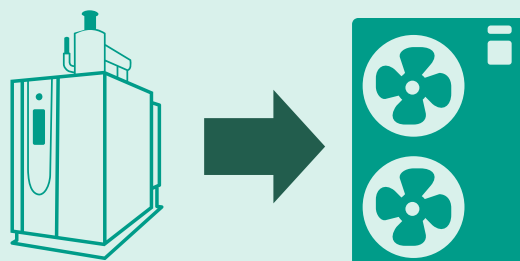
●情報入手

エンジニアリング会社とコンサルタント会社からの案内

●解決策（補助金額 3,650万円）

①給湯・加温システムのハイブリッド化（現用のA重油焚きボイラーを高効率温水ボイラー及び循環加温ヒートポンプ）や②高効率空調システム等に更新する。

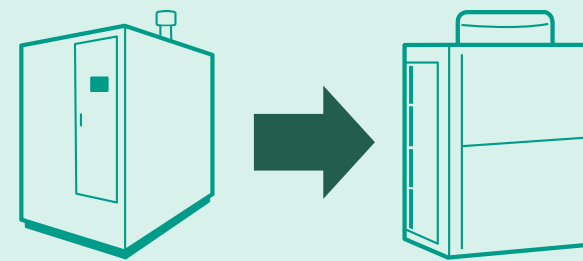
①



<A重油焚き温水ボイラー>
349kW2台

<高効率A重油焚き温水ボイラー+循環加温ヒートポンプ>
349kW1台+70kW4台

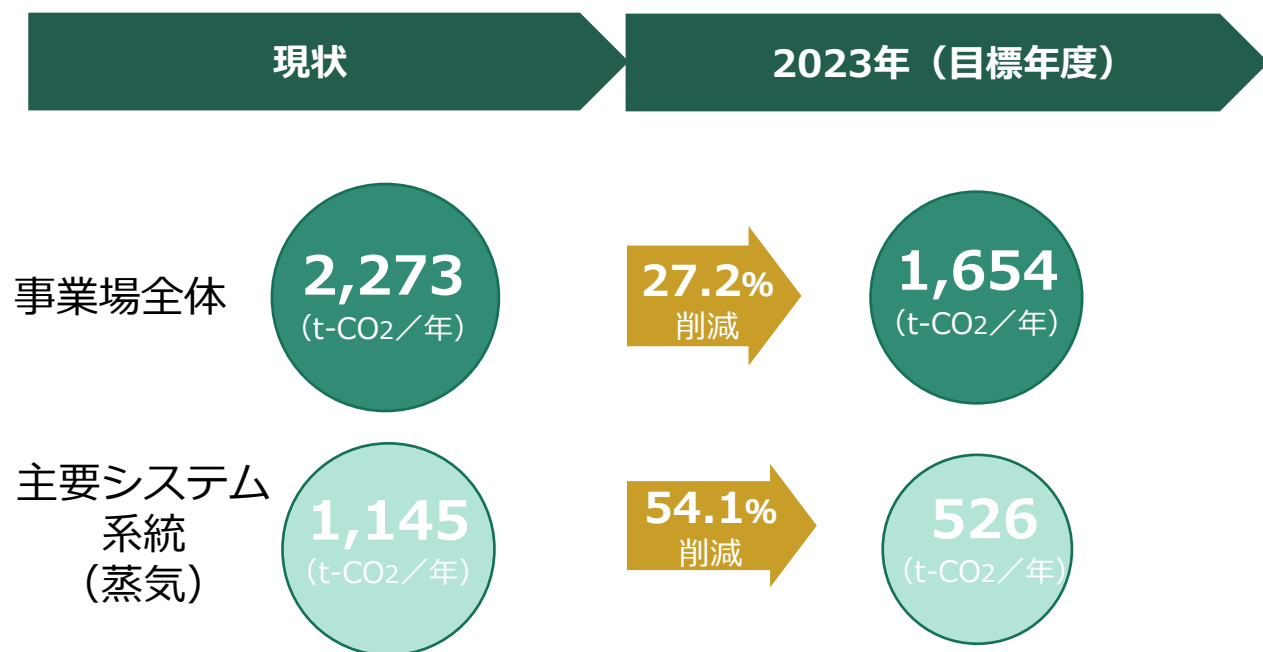
②



<A重油焚き吸収式冷温水機>
844kW、704kW各1台

<空冷ヒートポンプチラー>
180kW5台

◆CO₂削減計画



・期待する効果

エネルギーコスト削減額	約 895万円 / 年
投資回収年数（補助あり）	約 8年
投資回収年数（補助なし）	約 12年

・CO₂削減以外の効果

- ・冷却水ポンプ、冷却塔がなくなることで設備の故障リスクやメンテナンス費の節減、再投資コストがなくなる
- ・循環加温ヒートポンプに開放型貯湯槽を組み合わせ蓄熱することで、熱製造と利用時間をずらすことができピーク電力の上昇が抑えられる
- ・冷暖房の切り替えを業者に依頼せずに施設側で実施出来る

◆CO₂削減対策リスト

年間CO₂削減量の単位：t-CO₂/年
エネルギーコスト削減額の単位：千円/年

	対策種類		対策名称	CO ₂ 削減量	エネルギーコスト削減額
1	設備更新補助	燃料転換	高効率空調システムの更新	454.3	7,410
2	設備更新補助	燃料転換	給湯・加温システムのハイブリッド化	156.4	1,540
3	自主的対策	運用改善	冷温水の出口温度の調整	8	—

◆関係者の声

事業者



株式会社マイステイズ・ホテル・マネジメント
ファシリティマネジメント
本部長 藤原 基行様

補助金を活用する事で、主要な熱源機器の老朽化対策として大幅なシステム変更が実現出来ました。化石燃料を大幅に削減でき、CO₂の削減のみならず、ランニングコストの圧縮も図れる有意義な設備投資なので、今後の運用面でもしっかり管理・運用を行って参ります。

高周波誘導炉への更新による周辺環境の向上

◆事業者 概要

●設備更新補助事業活用

事業者	株式会社赤阪鉄工所
対象事業所	豊田工場
業種	輸送用機械器具製造業
所在地	静岡県焼津市



◆事業内容

2020年10月 検討開始
2021年12月 補助事業活用決定
2022年5月 応募申請
2023年2月 事業完了

●課題

キュボラが更新時期に達しており、コークス使用によるCO₂排出量が多量。また、騒音、残渣、臭気など工場周辺の環境に悪化影響。

●情報入手

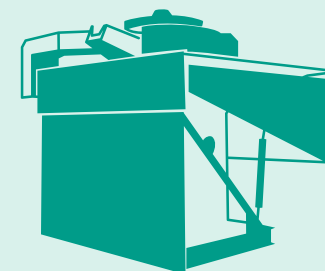
SHIFTに関するweb情報

●解決策（補助金額 約 9,900万円）

キュボラから高周波誘導炉に更新することで、コークスから電気への燃料転換による燃料使用量の削減とCO₂排出量の削減を目指す。

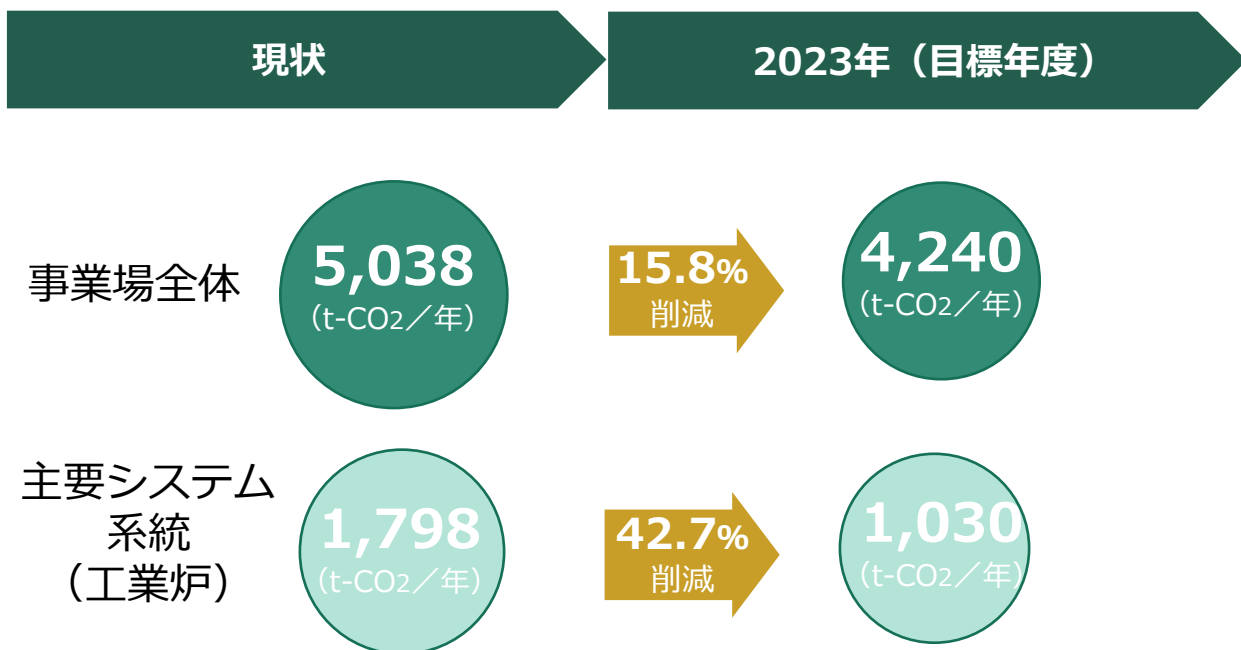


<キュボラ>
2,486kW2基



<高周波誘導炉>
3,000kW1台
(8t/charge)

◆CO₂削減計画



・期待する効果

エネルギーコスト削減額	約 3,955万円 / 年
投資回収年数（補助あり）	約 5年
投資回収年数（補助なし）	約 8年

・CO₂削減以外の効果

- ・メンテナンス負荷が低減できる
- ・炉のメンテナンス手順や体制の改善により、新設高周波誘導炉の稼働日数の向上が図られる
- ・高周波誘導炉を導入することで騒音、残渣、臭気などの工場周辺環境の改善が図られる

◆CO₂削減対策リスト

年間CO₂削減量の単位：t-CO₂/年
エネルギーコスト削減額の単位：千円/年

	対策種類		対策名称	CO ₂ 削減量	エネルギーコスト削減額
1	設備更新補助	燃料転換	キュポラから高周波誘導炉への更新	746	37,080
2	自主的対策	高効率化	メンテナンス用圧空システムにおける適正容量インバータ式コンプレッサーの導入	22	1,034
3	自主的対策	運用改善	既設高周波誘導炉の溶解の一部を新設高周波誘導炉に移転	14	686
4	自主的対策	運用改善	エアーコンプレッサーのアンロード電力の低減	16	748

◆関係者の声

事業者



株式会社赤阪鉄工所
代表取締役会長兼社長
杉本 昭様

補助金を活用することにより、溶解設備の環境負荷低減を目的とする大規模な更新を実施しました。申請の際に関連機関や支援機関の的確なアドバイスを受けたことにより、スムーズに申請することが出来ました。

蒸気ボイラーの更新と高効率設備の導入による生産性向上

◆事業者 概要

●設備更新補助事業活用

事業者	K社
対象事業所	Kサービス
業種	洗濯・理容・美容・浴場業
所在地	山梨県



◆事業内容

2021年10月 検討開始
2021年12月 補助事業活用決定
2022年5月 応募申請
2024年1月 事業完了

●課題

A重油を使用した蒸気ボイラーを使用しており、CO₂排出量が過剰で更新時期を迎えている。

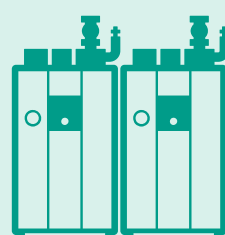
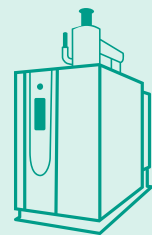
●情報入手

コンサルティング会社からの紹介

●解決策（補助金額 約 3,720万円）

①A重油焚き蒸気ボイラーから都市ガス焚きボイラーへ更新し、燃料転換（気体燃料ボイラーに更新することで燃料使用量、CO₂排出量の削減を目指す）を実施する。一旦LNGサテライトでLNGを貯蔵し、気化後蒸気ボイラーに供給する。また②乾燥設備を蒸気式から都市ガス式へ更新する。

①



<A重油焚き
蒸気ボイラー>
3,761kW2台
+1,254kW4台

<都市ガス焚き小型
蒸気ボイラー>
1,881kW3台

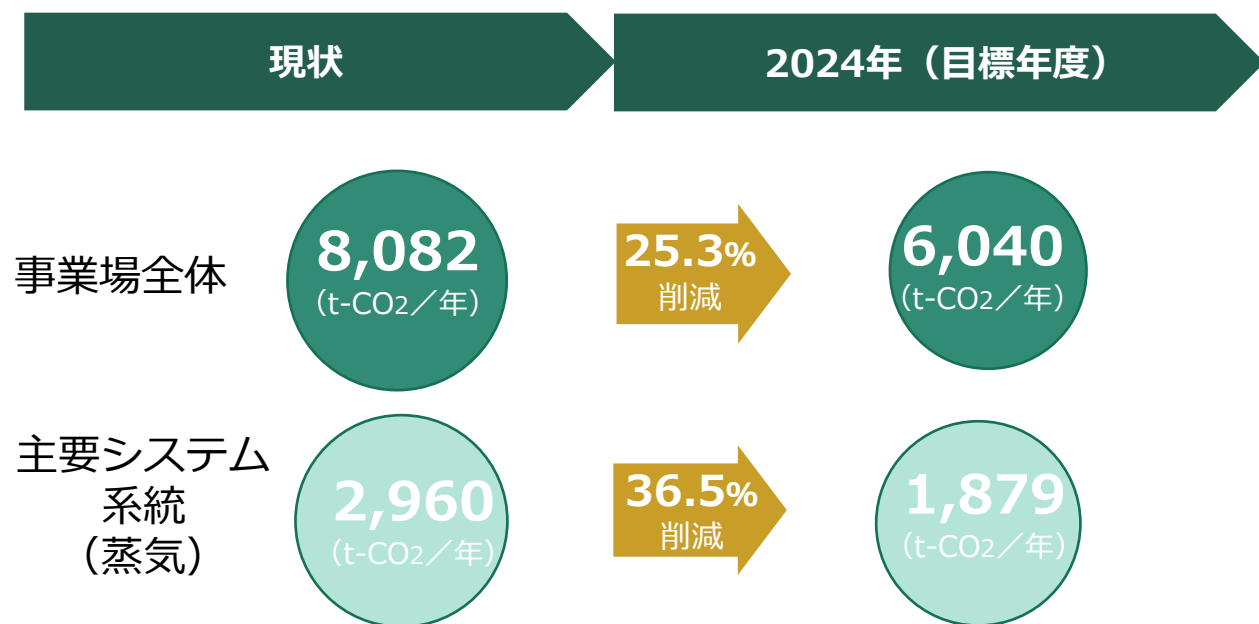
②



<蒸気式乾燥機>
210kW23台

<都市ガス直火式乾燥機>
290kW17台

◆CO₂削減計画



・期待する効果

エネルギーコスト削減額	約 1,250万円 / 年
投資回収年数（補助あり）	約 13年
投資回収年数（補助なし）	約 47年

・CO₂削減以外の効果

- ・トラップ診断を年一回実施することで、発生ドレン量が削減できる
- ・気体燃料に変更することで燃焼時のすす発生が低減されるため、ボイラーの伝熱面が汚れにくくなり効率低下の防止や清掃作業回数を減らせる
- ・定期的なスートブロー（すす吹き）等の作業回数を減らすことができる
- ・故障したトラップから出てくる蒸気によるやけどなどの事故防止にもつながる

◆CO₂削減対策リスト

年間CO₂削減量の単位：t-CO₂/年
エネルギーコスト削減額の単位：千円/年

	対策種類		対策名称	CO ₂ 削減量	エネルギーコスト削減額
1	設備更新補助	燃料転換	蒸気ボイラー更新による燃料転換	1,080	8,873
2	自主的対策	燃料転換	蒸気式乾燥機からガス直火式乾燥機への更新	962	3,601
3	自主的対策	部分更新・機能付加	スチームトラップの管理及び更新	1	27

◆関係者の声

事業者



K社
担当者様

工場新社屋の建設に伴い、老朽化した設備機器の更新を検討していたところ、コンサル会社よりアドバイスを頂き、補助金を活用することで、蒸気ボイラーの燃料転換と老朽化した設備機器の更新を計画することができました。

木質バイオマスボイラーの導入によるトータルコストの削減

◆事業者 概要

●設備更新補助事業活用

事業者	セーレン株式会社 セーレンケーピー株式会社
対象事業所	二日市事業所 二日市工場
業種	繊維工業
所在地	福井県福井市



◆事業内容

2019年2月

2022年4月

2022年5月

2024年2月

検討開始

補助事業活用決定

応募申請

事業完了

●課題

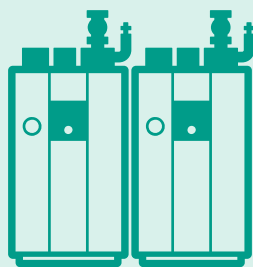
LPG炊き蒸気ボイラーにてプロセス側に熱エネルギーを供給しているが、化石燃料の高騰、CO₂排出量低減に対する対応が求められている。従来より運用している染色条件（時間・温度変化プログラム）の最適化がなされていない。

●情報入手

社内Cゼロプロジェクトチームによる情報調査、ふくいエネルギーマネージメント協会参加による情報収集など

●解決策（補助金額 約 24,650万円）

プロセス側のベース必要蒸気量を木質チップ炊き蒸気ボイラーに置き換えることで燃料費の削減とCO₂排出量の低減を図る。

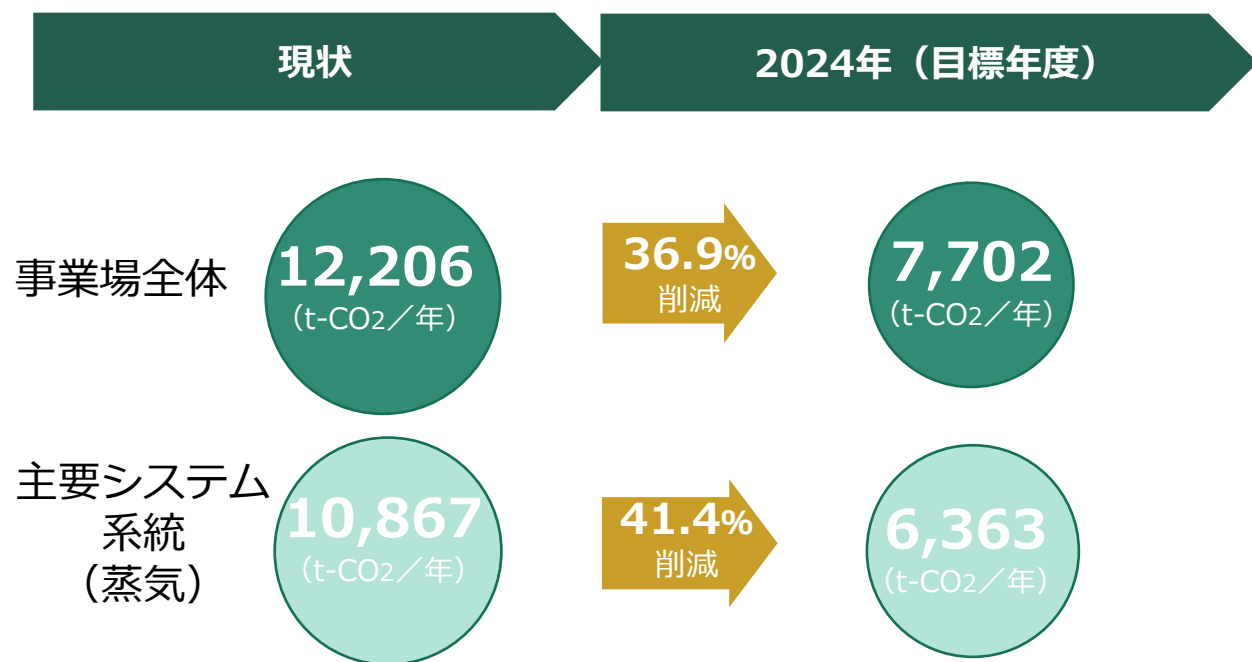


<LPG炊き蒸気ボイラー>
1,254kW3台



<木質チップ炊き蒸気ボイラー>
3,762kW1台

◆CO₂削減計画



・期待する効果

エネルギーコスト削減額	—
投資回収年数（補助あり）	約 6年
投資回収年数（補助なし）	約 9年

・CO₂削減以外の効果

- ・化石燃料の削減による経済効果があり、メンテナンス費は増大するが、トータルコストは大幅に削減可能となる
- ・適正染色カム（時間・温度変化プログラム）を設定し、見える化によりエネルギーロスを削減できる

◆CO₂削減対策リスト

年間CO₂削減量の単位：t-CO₂/年
エネルギーコスト削減額の単位：千円/年

	対策種類		対策名称	CO ₂ 削減量	エネルギーコスト削減額
1	設備更新補助	燃料転換	木質バイオマスボイラーの導入	4,396	—
2	自主的対策	運用改善	染色機の染色カム最適化	108	—

◆関係者の声

事業者



セーレン株式会社
執行役員
細田 富士雄様

脱炭素の企業活動の1つとして今回のバイオマスボイラーへの転換が、社会に貢献できる事業と考えています。

ガス焼き蒸気ボイラーの導入による環境負荷の低減

◆事業者 概要

●設備更新補助事業活用

事業者	テイカ株式会社
対象事業所	岡山工場
業種	化学工業
所在地	岡山県岡山市



◆事業内容

2021年10月	2021年12月	2022年5月	2025年1月
検討開始	補助事業活用決定	応募申請	事業完了

●課題

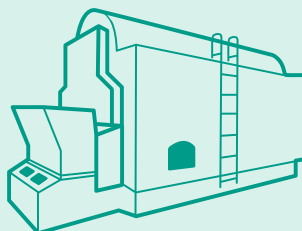
燃料に石炭が使用されており、CO₂排出量が過多となっており、更新時期を迎えている。

●情報入手

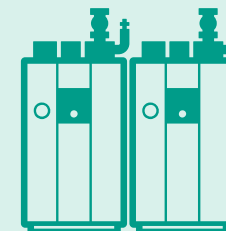
ガス会社からの紹介

●解決策（補助金額 約 40,000万円）

石炭焼きボイラーから天然ガスタービン及び蒸気ボイラーへ更新し、CO₂排出量の削減を目指す。初期は、コスト増となるが、クリーン燃料への転換を図るため実施する。

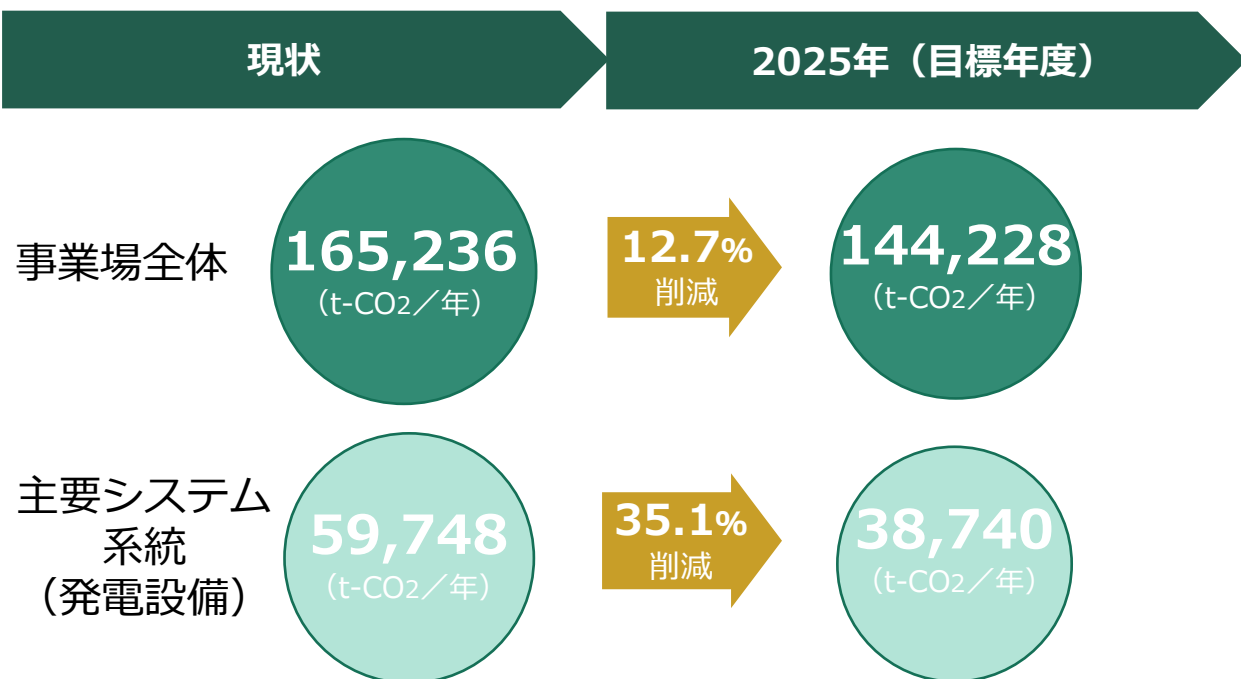


<石炭焼き蒸気ボイラータービン>
2,030kW1台
<石炭焼き蒸気ボイラー>
144,201kW1台



<天然ガス焼き蒸気ボイラータービン>
1,700kW1台
<排ガスボイラー（追焼き付き）>
6,269kW1台
<天然ガス焼き蒸気ボイラー>
1,881kW5台

◆CO₂削減計画



・期待する効果

エネルギーコスト削減額	なし(コスト増加)
投資回収年数(補助あり)	投資回収不可
投資回収年数(補助なし)	投資回収不可

・CO₂削減以外の効果

- ・ガス焚きにより燃焼時に発生する窒素酸化物(NOx)、硫黄酸化物(SOx)が低減し、環境にやさしいシステムとなる
- ・ボイラーの伝熱面が汚れにくくなり効率低下の防止につながる
- ・定期的なすす吹き(スートブロー)等の作業回数を減らすことができる

◆CO₂削減対策リスト

年間CO₂削減量の単位：t-CO₂/年
エネルギーコスト削減額の単位：千円/年

	対策種類		対策名称	CO ₂ 削減量	エネルギーコスト削減額
1	設備更新補助	高効率化	ガスタービンコージェネレーションの導入	10,547	—
2	設備更新補助	燃料転換	ボイラーの燃料転換	10,434	—
3	自主的対策	高効率化	LED照明の導入	27	—

◆関係者の声

事業者



テイカ株式会社
代表取締役社長執行役員
出井 俊治様

カーボンニュートラルに向けた脱炭素社会に貢献するため、当工場から排出される二酸化炭素を減少させて行くことは必須の課題である。そのため、本事業においてクリーン燃料に転換することで大きく寄与できる。